

令和8年度 作木中学校 教育推進計画

1 研究主題 思考力・判断力・表現力を高める指導の在り方
～教科の「見方・考え方」を働かせる授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

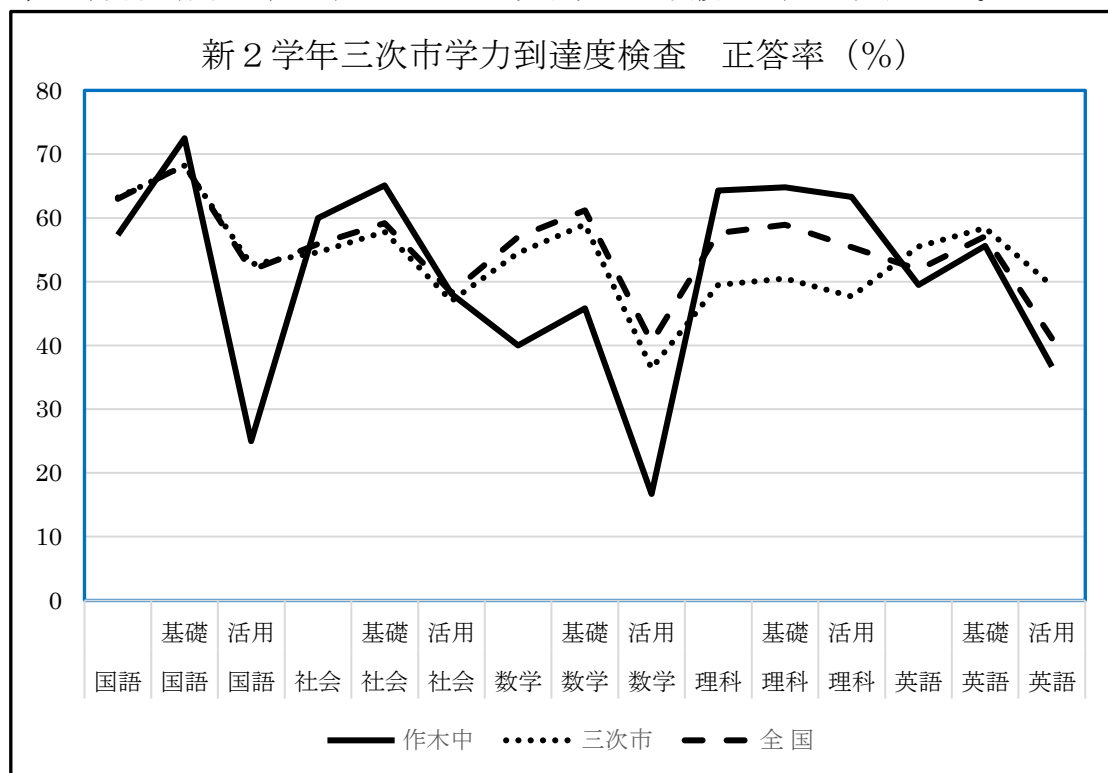
作木町は中国山地の山懐に抱かれ、「中国太郎」の名を持つ江の川や「日本の滝百選」に選ばれている常清滝など豊かな自然に恵まれている。この自然環境を生かして、作木町では稲作を始めとして、梨やリンゴの栽培など農業が盛んである。また、地域の伝統芸能である神楽の継承や地域資源の活用などによる地域の活性化が、地域住民によって積極的に取り組まれている。

本校生徒は、明るく、元気のよい挨拶ができ、学習や部活動にまじめに取り組んでいる生徒が多い。また、ほとんどの生徒が同一の保育所、小学校で育ってきているため、お互いの長所・短所をよく知り、家族的な仲間意識を持っている。

作木中学校区では、「作木中学校区授業モデル」にもとづき、「基礎・基本」の習得と「思考・表現」の充実を図るべく授業研究をすすめてきた。

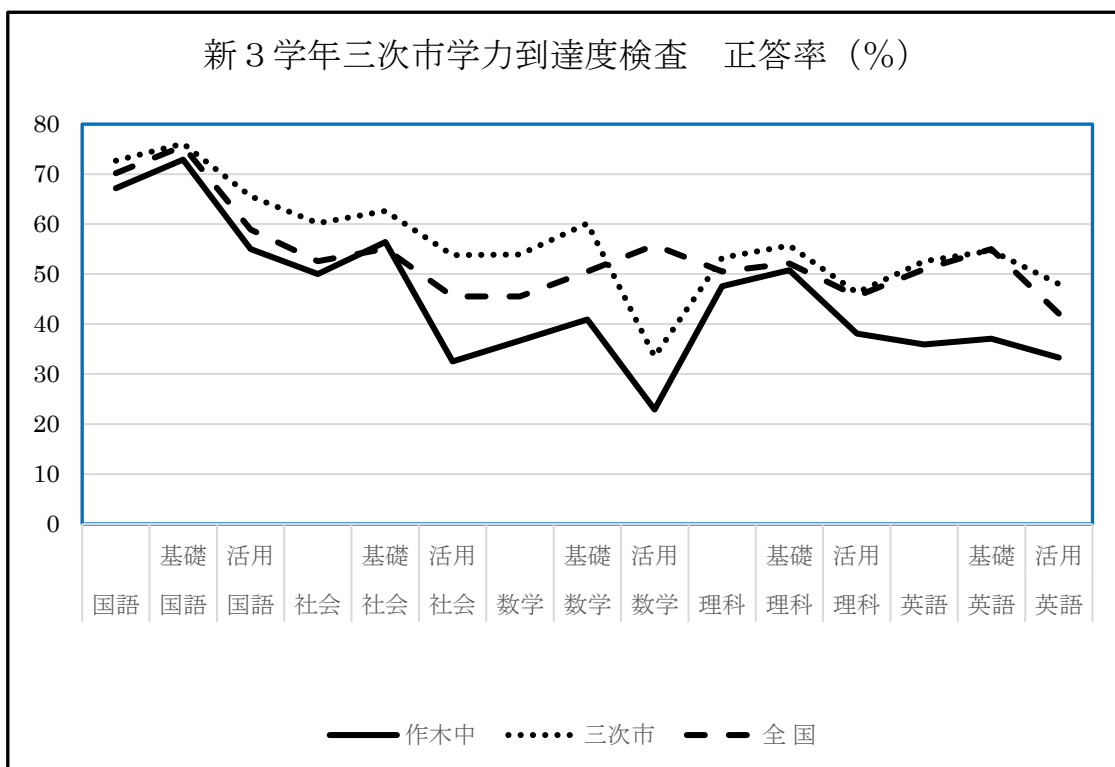
本校においては、昨年度、小中合同授業研究会を含む9回の授業研修を行い、対話によって学びを深める授業づくりを通して、思考力・判断力・表現力を高める指導の在り方を探ってきた。また、自主学習ノートや学習計画表を持たせ、定期的に学習相談を行い、家庭学習についての指導も行ってきた。

次は、昨年度末（令和8年1月）に実施した三次市学力到達度検査の平均正答率である。



	国語	国語基礎	国語活用	社会	社会基礎	社会活用	数学	数学基礎	数学活用	理科	理科基礎	理科活用	英語	英語基礎	英語活用
作木中	57.3	72.5	25.0	60.0	65.1	48.1	40.0	45.8	16.7	64.3	64.8	63.3	49.5	55.6	36.7
三次市	63.2	68.2	52.7	54.6	57.8	47.0	54.5	59	36.4	49.5	50.5	47.7	55.5	58.4	49.4
全国	63.0	68.3	51.8	55.9	59.2	48.3	57.0	61.2	40.5	57.6	58.9	55.4	51.9	57.1	41.1
全国との差	▲ 5.7	4.2	▲26.8	4.1	5.9	▲ 0.2	▲ 17.0	▲ 15.4	▲ 23.8	6.7	5.9	7.9	▲ 2.4	▲ 1.5	▲ 4.4

新3学年三次市学力到達度検査 正答率 (%)

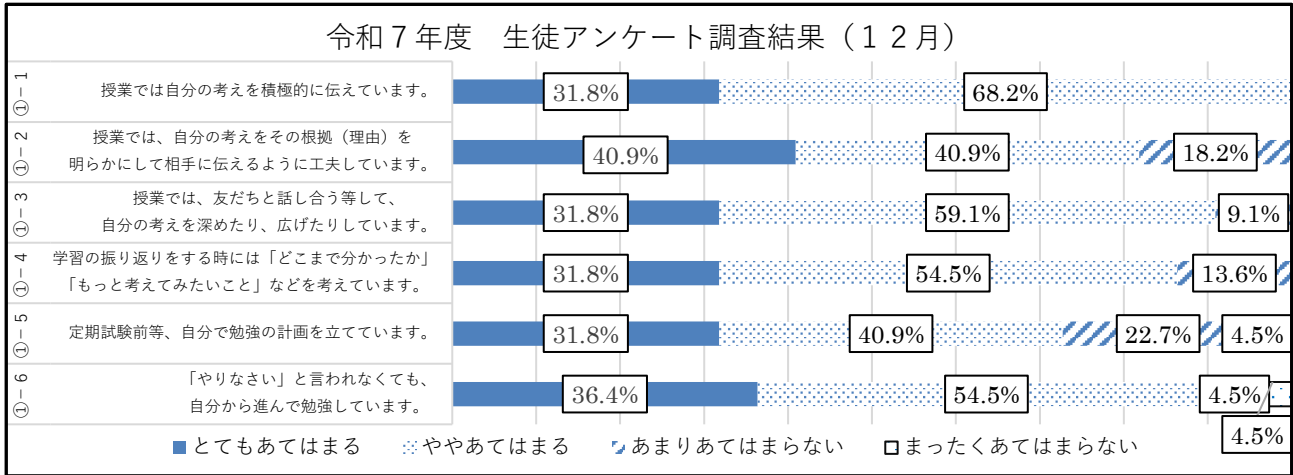


	国語	国語基礎	国語活用	社会	社会基礎	社会活用	数学	数学基礎	数学活用	理科	理科基礎	理科活用	英語	英語基礎	英語活用
作木中	67.2	72.9	55.0	50.0	56.4	32.5	36.7	40.9	22.9	47.6	50.8	38.1	35.9	37.1	33.3
三次市	72.7	76.1	65.6	60.2	62.6	53.8	53.9	60.1	33.5	53.3	55.7	46.3	52.6	54.7	48.0
全国	70.2	75.6	58.9	52.6	55.1	45.5	45.5	50.5	55.8	50.5	52.1	45.6	51.0	55.0	42.1
全国との差	▲3.0	▲2.7	▲3.9	▲2.6	1.3	▲13.0	▲8.8	▲9.6	▲32.9	▲2.9	▲1.3	▲7.5	▲15.1	▲17.9	▲8.8

新2学年は、社会と理科で全国平均を上回った。また、基礎問題については国語を含む3教科で上回っている。しかし、理科を除く4教科の活用問題が全国平均を下回っており、知識の活用に課題がある。特に国語と数学の活用問題に大きな課題がある。国語では、「情報の扱い方に関する事項」問いが全国平均を大きく下回っている。また数学では、「負の数の大小関係について理解している」問いが全国平均を大きく下回っている。

新3学年は、全ての教科で全国平均を下回っている。特に、数学、英語が課題である。どの教科についても基礎的な知識の定着が弱く、活用問題に大きな課題がある。しかし、社会の基礎問題については、わずかではあるが全国平均を上回っている。数学では、「単項式の乗法と除法ができる」問いが全国平均を大きく下回っている。また、英語では、「文の語順を理解し、正確に書いている(現在進行形の疑問文・疑問詞 which の文)」の問いの正答率が全国平均を大きく下回っている。

次は、12月に実施した生徒アンケート調査の結果である。



「授業では自分の考えを積極的に伝えていきます（①-1）」に肯定的に答えた生徒は100%であり、学習に対して興味、関心、意欲を持ち、積極的に学習に参加していることが分かる。しかし、「授業では、自分の考えをその根拠（理由）を明らかにして相手に伝えるように工夫しています（①-2）」に肯定的に答えた生徒の82%にとどまっている。

このような学力調査、アンケート調査の結果から、基礎的・基本的な学力を身に付けさせ、教科の「見方・考え方」を働かせる授業づくりを行い、しっかり考え判断し、表現できる生徒の育成が必要である。

3 研究仮説

各教科等の授業において、「見方・考え方」を働かせる授業づくりを行えば、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

4 具体的な取組

- 作木中学校区授業モデルの実践
 - 個人思考→集団思考→個人思考
- 「本質的な問い」に基づく単元づくり・授業づくり
 - ア 単元を貫く問いの設定～単元構想シート作成
 - イ 思考を深める発問の工夫～理由、根拠を考えさせる発問
 - ウ 「見方・考え方」を働かせた授業スタイルの確立～指導案に具体的に記載する
- ICTの効果的な活用

5 検証の方法

- ・行動観察
- ・各種学力、アンケート調査
- ・学習記録、ノート
- ・作品、作文
- ・生徒アンケート

6 到達目標（作木中学校学校評価自己評価項目）

- ア 生徒アンケートの肯定的評価の割合80%以上。
 - ①自分の考えを積極的に伝えている。
 - ②根拠を明らかにして相手に伝えている。
 - ③授業では、友だちと話し合う等して、自分の考えを深めたり、広げたりしている。
 - ④振り返りは「どこまで分かったか」「もっと考えてみたいこと」などを考えている。
- イ 三次市学力到達度検査（2年）については全国平均以上の生徒の割合、実力テスト（1・3年）については県平均以上の生徒の割合50%以上。
- ウ 生徒アンケートの肯定的評価の割合60%以上。
 - ①定期試験等、自分で勉強の計画を立てている。
 - ②「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしている。
 - ③分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している。

7 研究推進計画（令和8年度 研究推進計画）

4月	研究計画の立案と共通認識	日々の授業改善・研究授業・授業交流の実施	4月3日(木) 校内研修 (今年度の研究方針についての共有化)	
5月	めざす授業像の明確化, 共有化をはかる。		5月7日(木) 校内研修 (理論研修・指導案様式)	
6月	市学力到達度検査(6月10・11日)		7月9日(木) 授業研究 ()	指導主事招聘
7月	課題をふまえて各教科指導法を工夫改善し実践する。 生徒アンケートを実施する。(7月)		7月30日(木) 校内研修 (全国学力学習状況調査, 広島県公立高校入試問題の分析等)	
8月	授業交流及び授業研究を推進する。		8月21日(金) 校内研修 (授業づくり)	
9月			9月10日(木) 授業研究 ()	指導主事招聘
10月	小中一貫教育合同研究会(10月8日)		10月8日(木) 公開授業 () 公開授業 ()	指導主事招聘
11月	課題をふまえて各教科指導法を工夫改善し実践する。		11月26日(木) 授業研究 ()	指導主事招聘
12月	生徒アンケートを実施する。(12月)		12月10日(木) 授業研究 ()	指導主事招聘
1月	今年度の研究の成果と課題の明確化をはかる。組織的な取り組みとして継続する。		12月28日(月) 校内研修 (研究実践のまとめ)	
2月	来年度研究計画の立案 (三次中との連携)		3月24日(水) 校内研修 (研究・実践のまとめ)	
3月				

※ 日時は未定です。